

## 2011年度人権課題別講演会 「ハンセン病差別と今日的課題」に参加して

亀井見佳・窪 鈴佳

6月15日(水)、生涯学習センター3階ホールにて、大島青松園入所者自治会前会長山本隆久さんの講演会がありました。以下その概要を述べます。

ハンセン病とは、「らい菌」という細菌によって感染することにより引き起こされる病気である。現在の日本では、非常に希なものであり、もし感染しても皮膚科などへの外来通院で完治できる病気になった。しかし、昔は忌み嫌われ、そう診断されると、自分の生まれた所で生活し続けることが困難な状況だった。1907年に「らい予防法」が施行され、患者は強制的に療養所に収容されたのだ。療養所での生活は非衛生・非栄養・非人間的なものであり、人手が足りないため患者も職員と一緒に作業をせねばならない所内運営だった。

山本氏自身は1952年(昭和27年)の入所だが、そのころも所内には「自由」がなく、「人権」も「プライバシー」もない、まるで刑務所のようなひどい生活だった。

1996年(平成8年)に「らい予防法」は廃止され、強制収容は解かれたが、その時入所者の平均年齢は70歳にもなっていた。50年も脱社会の中で生きてきているので、できれば自分の生まれた土地へ帰って自分の家のお墓に入りたいという思いはあっても、なかなかそうはいかない。本当に長い間人権を無視されてきた。人間が人間を差別することはあってはならないことだ。

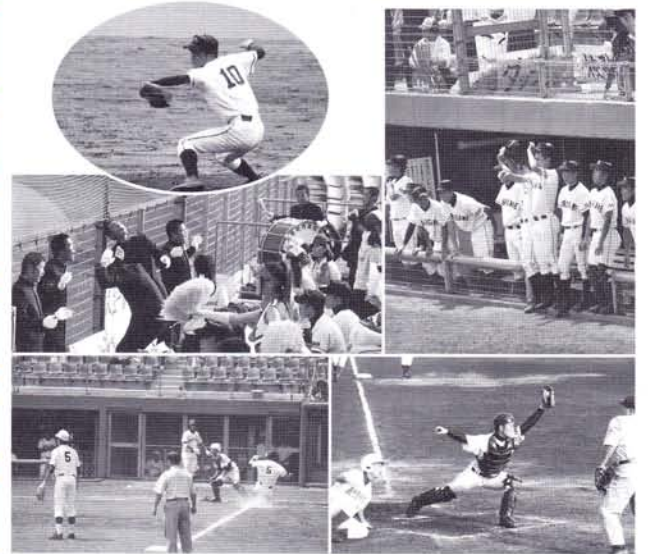
「差別は良くない」ということはわかっていながら、偏見や差別はなかなか無くなりません。人間は、大なり小なり差別感や優越感を持たずにはいられないのかもしれませんが、しかし、正しい知識をもつことで、相手の立場になって考えることができるようになる、それが偏見や差別をなくするためには大切なのだと、この講演を聞いて強く思いました。いい機会に恵まれたことを感謝します。

## 野球部監督 橋野純氏「育成功労賞」受賞

総監督・監督として通算20年以上指導・育成に貢献した指導者に、日本高野連と朝日新聞社から贈られる「育成功労賞」の表彰式が8月15日甲子園球場で行われ、丸亀城西高校野球部監督(丸亀商業OB)橋野純氏(63)が表彰を受けられました。そこで橋野氏に、受賞の感想をお聞きしました。



「このような賞をいただけてありがたい。今まで支えてくれた方や教え子たちのおかげです。今後も野球を通じ優れた人材育成に寄与することを誓うとともに、丸亀城西高校の監督として他校に負けたくないよう頑張っていきたい。そして近い将来再び丸亀城西球児を引き連れて甲子園の土を踏みたい」と気持ちを新たに語って下さいました。



## 7月5日 クリーンアップ

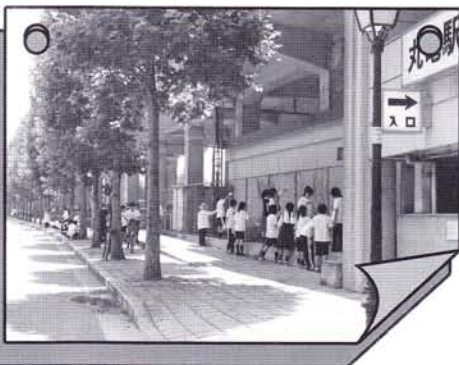
7月5日梅雨の晴れ間の蒸し暑い中、250人余りの参加により恒例のクリーンアップ活動が行われ、学校周辺や丸亀駅周辺等の清掃をしました。

校長先生の「日ごろお世話になっている地域の皆様への感謝の気持ちを込め、協力しあって清掃しましょう。どうせならば、よくやってくれたな～と言われるように頑張りましょう。」との掛け声の下、それぞれの担当場所へと向かい汗を流しました。

ゴミの多さに、やりがいがある！と張り切ったり、丁寧に清掃しよう！と意気込んで向かった先が予想よりきれいで拍子抜けしてしまったり、

と、場所によっていろいろだったようですが、みんな元気よく活動でき、ずいぶんきれいになりました。

最後にボランティア同好会による冷えたお茶等の接待があり、疲れをいやしました。



# 全国高等学校PTA連合会大会に参加して

PTA副会長 三好優千代



大会は8月25・26日、北海道「北海きたえーる」をメイン会場に、開催されました。大会テーマは「いのち 輝け!」。前もって決まっていたテーマではありますが、東日本大震災後初めての大会ということで、「いのち」について改めて考えさせられることとなりました。

いのちが大切なことは、私たちも子供たちも十分に分かっています。しかし、いのちを輝かせる方法については、明確に分からないのが現状だろうと思います。分からないから面白い、わかってしまっていたら、とつてもつまらないと私は思います。前をしっかりと見つめ、自分が信ずる道を進んでいくことによってのみ、明るい未来が開かれるのではないのでしょうか。迷わずに進むことで道は開ける、そう信じて疑いません。子供たちが自分自身の夢や希望をしっかりと持って未来に向かって挑戦すること、それこそが彼らのいのちを輝かせることになるのだと思います。私たち保護者は、子供たちが自らのいのちを輝かせることができるよう、見守り応援し支えていこうではありませんか。子供たちを取り巻く環境は、決して好ましいものではありません。しかし、彼らは自分自身を信じ頑張っていくことと思います。

最後になりましたが、教頭先生をはじめ、他校の先生方には大変お世話になり、ありがとうございました。



# 第53回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会 (広島大会) 参加報告

理事 瀧口清司



新幹線を降りると、突然むっとした熱気が顔に当たる。7月半ば、もうすっかり夏である。会場である広島市文化交流会館までは駅からバスで25分ほど。少し早目に家を出発したので、受付まで時間は十分にある。

駅南口を出て徒歩で向かった先は広島城。広島には今まで4度ほど来ているが、ここを訪ねるのは初めてである。天守閣はあるがその他は跡地ばかりで、これも原爆の爪あとか……と一人勝手に想像しつつ散策した。3月の大震災は未曾有の被害をもたらしたが、あれから半年たった今もさまざまな難題が山積したままである。特に原子力発電所関連では被害が広がるばかりで、この先どう経過していくのか、収束はいつになるのか、先が見えず不安で異常な状態が続いている。ここ広島は、放射能被害を受けた数少ない地である。その経験には日本中に、また世界へと発信できる事柄が多くあるのではないと思う。各地の学校・地域・公共の組織・各種団体が、被害に苦しんでいる方々の立場に立って、協力・発信・援助を継続していくことが大事だとあらためて思った。

お城を後に平和公園方向に向かう。修学旅行?遠足?まるでカルガモの親子のように、大勢の子どもたちが先生の誘導に列を組んで小走りについて行っている。もっとじっくりと周りを見せてあげたいのにな、とおせっかいなことを思う。

さて、会場に到着。まず綺麗な建物と会場内の人の数に驚く。「『親と子の信頼でつなく命の絆』～心の声が聞こえますか～」のテーマのもと香川・鳥取・広島の3校からの研究発表があり、熱心な協議が行われた。続いて開催地広島の高校生による神楽・空手・和太鼓の発表があった。いずれも部活動として取り組んでいるらしい。神楽といっても、神社に代々伝わる伝統芸能というよりも鍛錬された踊り、演舞である。また、華やかな(高価そうな)衣装はとても高校生の部活動レベルではない。この地域の伝統芸能を守るため、学校を含めた地域全体でのバックアップ体制が整っているのだろうと思われた。臨床心理士でありスクールカウンセラーでもある樋口啓子氏の講演は、思春期の子供をもつ親の一人として得るところの多いものだった。

今回、広島大会に参加して、何気なく見過ごしていた「今」を、より深く考えることができた。有意義な研修であった。

# 城西祭に参加して

厚生委員長 根来幸治

今年もPTAは「マーケット&バザー」で、城西祭に参加しました。

9月10日(土)、当日は天候にも恵まれ、来校者も多く、活気のある城西祭となりました。一昨年より昨年、昨年よりも今年と完成度の高くなっている展示物を見て、今後もより一層レベルアップしてますます活気ある城西高校へ成長していくことだろうと思いました。

最後に、バザー品をご提供いただいた皆様、前日、当日と販売等でご活躍いただいた研修委員の皆様、そして生徒の皆さん、先生方 ご協力ありがとうございました。来年もご協力のほど、よろしくお願いたします。



# ごあいさつ

PTA会長 和田 孝信

会員の皆様には日ごろ丸亀城西高校のPTA活動にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

本年度は東日本大地震、福島原発事故を経て大変なスタートとなりました。今この時も大変な苦難の中で生活されている被災者の方がたくさんいます。そんな中で選抜高校野球開会式での選手宣誓「野球のできる喜び、生かされていることの喜びを忘れずプレーします」の言葉は、日本中に勇気と希望を与えてくれました。

高校生や若い人たちの笑い声や頑張る姿が今の日本には一番必要です。丸亀城西高校がより楽しく、よりいい学校になるように私たちも頑張ります。今年も応援をよろしくお願いします。



# 「言葉の役割」

校長 井上 直樹

平素より、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私が、本校で気にかけていることが二つあります。それは、生徒達の「あいさつ」と「言葉」の使い方です。「あいさつ」については「丸亀城西便り」の9月号に記載したところですが、生徒の「言葉」の使い方については、先生方や友達との会話を聞いていると驚かされることがたびたびあります。私達が毎日使っている言葉、自分の意志や考えを伝える役割を果たしている言葉、その「言葉」についての私の思いを述べてみたいと思います。

私達は、日頃の社会生活の中で、一日として「言葉」を交わさないことはない。その日常生活で、何気なく言った言葉が「相手に不快感を与えたり、心に安らぎを与えたり」と言葉は使い方によって、随分変わる。また、言葉は使い方によって、暖かい言葉になったり、恐ろしい凶器になったりする。たとえ短い言葉でも、自然に相手の心に響き、良い人間関係を作り、そして、社会を明るくすることもできる。このように、人と言葉を交わす時、言葉の重要さ・恐ろしさ・偉大さに気付かされることがある。

例えば、電車の中で他人の足を踏んでしまったり、自転車でぶつかりそうになったりして注意された時、「どうもすみません」の一言がない場合がある。この一言がないばかりに相手に不快な思いをさせて、トラブルになるケースが多い。私達の中にも、これに似た体験をした人も少なくないのではなからうか。やはり、このような素直な一言は普段から自然に出て使えるようにしたいものだ。そして、口先だけで言うのではなく言葉に表情を持って言って欲しい。「すみません」と言う言葉一つをとってみても、口先だけで言ったのと、心の底からそう思って頭を下げる気持ちで言ったのとでは、相手の受け取り方も随分違うし、それが言葉の表情だと思う。つまり、言葉は口先だけのものではなく、言葉は身体で表すものであるということ、私達は忘れてはならない。

このように、言葉は「魔法」とも言える。その言葉の使い方・表情のつけ方次第で人間関係を変えることができるからである。この魔法のような一面があるからこそ、それを使う私達の人間性が要求されるのではないだろうか。また、言葉は「心の鏡」と言われるように、その使う人自身の人格・教養のすべてが表れる。言葉は、相手に対する少しの気遣いで、その人自身を美しく輝かせ、人柄のやさしさをにじみ出させる。本当に、言葉の偉大さに驚かされる。

私達は、言葉の意味を理解した上で使わなければ、言葉は生きたり、死んだりする。常に生きた言葉を使うように、心がけなければならない。そして、「声は人なり」と言うように、言葉の使い方によってその人の人格は左右されるので、相手の身になって言葉を交わそう。

そのためにも、私達は日頃から「言葉」の使い方を意識し、鍛錬する必要があると思う。

## 第6回丸亀市PTAソフトボール大会

平成23年7月10日(日)

PTAソフトボール責任者 高島 清志

今年の大会は1点取るぞ!!

「高島、今年は監督頼む」の一言から始まったPTAソフトボール活動(+o+)「2年間1点も取ってないきん頼むぞ～」と言いわたされ、プレッシャーの中試合が始まりました。ところがどっこい試合に勝つわ勝つわ、なんと決勝戦まで行っちゃいました。



決勝・・・うそみたいやなあ～ ひょっとして初出場・初優勝かと思いきや、昨年までいた南中PTA軍団にこてんぱんに負けちゃいました(>\_<)

結果 準優勝

みんなで力を合わせて頑張りました(´o`) / PTAのお母さん方の応援もあり、頑張ることができました。来年は優勝目指して頑張ります。

# 準優勝!!

城西高4 - 3 飯山高  
城西高7 - 4 丸亀高  
決勝戦 対 南中学



### 編集後記

3年目の「城西だより」となりました。2年間、ありがとうございました。これまで2年間の経験を生かし、よりよい「城西だより」にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。また、今号の記事作成にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。(総務委員長 米澤)

総務委員 和泉 横井 福田 川内 北風 亀井 松村 江崎 矢野 窪 宮本